



2018年 12月10日
第68号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情報部

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



4、南武線運輸関係基地再編成計画「川崎運輸区（仮称）」および「鎌倉車両センター中原支所（仮称）」設立に向けて検討している規模や工事スケジュールおよび車両メンテナンスネットワークの強化に向けて「支所」とする考え方を具体的に示すこと。

回答) 成案になり次第、提示していく。



組合) 乗務員基地再編成のスケジュールを明らかにすること。

会社) 2019年度下期開業をめざしている。

乗務員については、中原電車区と矢向車掌区の足した規模になる。

車両職については、鎌倉車両センター中原支所になる。

2019年度下期に川崎運輸区（仮称）の移転後、中原電車区の庁舎等のリニューアルを行い、車両職が移転となる。

組合) 支所化についての考え方を明らかにすること。

会社) 横浜支社の中で初めてのことであり、派出としては規模が大きいため支所とする。機能保全は行っていく。

メンテナンス全体を考慮して、連携しやすく、輸送品質の向上を図る。

組合) 支所化のメリットを明らかにすること。

会社) 技術継承とメンテナンス社員のレベルアップを図り、輸送品質の向上を図る。

組合) 女性が働きやすい職場に向けて検討されているのか。

会社) 女性が働きやすい環境を検討していく。

確認

今後、成案になり次第議論をしていくことを確認！

5、びゅうトラベルサービス横浜において、実態に合わせた営業時間の変更や作業ダイヤの見直しをおこなうこと。あわせて適正に労働時間管理がおこなえる体制とすること。

回答) 株式会社びゅうトラベルサービスにおける運営体制については、株式会社びゅうトラベルサービスで決定されることとなる。

組合) 人材育成とりわけOJTの部分において、課題があるとして認識しているのか。

会社) 当初は、仕事に慣れない社員もいたが順調に育っている。

組合) 業務の繁忙はあるが、育成にまで手が回らないという声がある。移管して作業ダイヤの本数が減り、要員も減り、超勤が増加した。36協定の議論で、作業ダイヤの変更等で超勤を減らす議論をしてきた。株式会社びゅうトラベルサービスに対して、意見交換等を行っているのか。

会社) 株式会社びゅうトラベルサービスとは定期的に意見交換している。社員の声は積極的に聞いていく。

しかし、主体は株式会社びゅうトラベルサービスとなる。

